

日本共産党青森県議会議員

安藤はるみの

新・アジサイだより



ふるさと

故郷を
奪った原発

もうなくせ

(まるみのワクワク川柳)

県議会報告会行う

2月13日弘前文化センターにて50人の方々の参加で行われました。



環境厚生常任委員会

2月19日
●原子力災害時の安定ヨウ素剤配布について問う

医療業務課長

「東通原発から半径5キロ区域(東通3地域)の3歳以上※の住民2900人について、事前配布。30キロ区域(むつ市、野辺地町、横浜町、六ヶ所村、東通村)の

対象人員7万3千人については、避難の際に学校や公民館などで配布服用。現在必要人口数の3倍を用意し有効期限失効しないよう随時交換(※3歳未満の乳幼児は粉末を溶かして服用)」と答弁。

●新制度の下での保育料を問う

子どもみらい課長

「子ども子育て支援新制度における保育料は国が定める水準を上限として市町村が定める。算出基礎となる所得税額から市町村税額に変更されたが、事務簡素化のため保育料に大きな変化はない。徴収方法は保育所が市町村、認定こども園が施設で徴収する。保育標準11時間、保育短時間8時間の認定を受けるが、それ以上の延長保育は利用者負担となる。」

★県内市町村の保育料を問う

「無料化しているのは中泊町、西目屋村。市で上限額が最も高いのは弘前市」

●介護保険施設等の食費・居住費の負担軽減の基準見直しと周知について

高齢福祉保健課長

「介護保険施設費用のうち食費及び居住費は利用者の自己負担が原則。ただ、市町村民税等の非課税世帯の利用者については申請に基づき軽減が図られる。平成27年8月に施行された介護保険制度の改正で、特定入所者介護サービス費の見直しが行われ、利用者世帯移入した場合でも配偶者が市町村民税非課税であること、利用者などの預貯金が配偶者がいない場合利用者の預貯金が1000万円以下、配偶者がいる場合利用者及び配偶者の合計額が1000万円以下であること」と答弁。

★市町村窓口での丁寧な説明が行われるよう求めました。

他、東通原子力発電所災害時の避難者受け入れが五所川原・黒石・平内に広がる件、男女共同参画意識(ジェンダーフリー)の定着についても質問しました。

5年目の3・11 さようなら原発・核燃

2/27

弘前集会で浪江町「希望の牧場」代表吉沢正巳氏と共に(右)



3/6 青森集会で「制服向上委員会」のメンバーと(上)

県庁前でコール(右)



短命県克服に一石なるか

ほつとタイム



夫の病気を機にUターンしてきた次男夫婦には何かと助けてもらい大助かりです。その次男が今度店を開くことになりました。私たち夫婦にとって商売とは縁がない人生だったので、どうアドバイスしたらよいか迷うところですが、自分で選択し歩もうとするその思いに後押しをしなければと思っています。次男は小中の時は野球少年、高校は槍投げの選手、大学はスポーツ科学の専門を学び、社会に出てからはマッサージ師などを経験し、自分の体験を通して体にとっての食の大切さを学んできたようです。そこで行き着いたのが体に良い油(オリーブオイルなど)を中心に自然食品を扱う店を構えることでした。オリーブオイルは最近注目を浴び奥が非常に深いもののようにです。健生病院の機関紙「健康」で安田肇先生が「長寿の一考察」の中で、現在104歳になる聖路加国際病院名誉院長の日野原重明先生が、毎朝オリーブオイル一杯を飲んでることを紹介されてました。息子はオリーブオイルのソムリエの資格もとると張り切っています。

店の一角には「まちライブラリー」も設けるのだそうです。共通の本棚を置きメッセージ付きの「本」を持ち寄り交換しながら人の縁を紡ぐ活動だそうです。息子の「夢」が形になるのもあと少し。3月26日に自宅近くに開店します。短命県克服の青森県に一石が投じられるよう願うばかりです。

■皆さんの「ご意見」・「ご要望」をお寄せ下さい。■「生活相談」お気軽にご連絡下さい。2月の相談対応 3件。

発行：安藤はるみ

事務所 弘前市宮川2丁目3-2 電話0172-35-7021
10:00~15:00(土・日・祝日休み 留守電対応)

自宅0172-35-2270

2月のホームページアクセス数
25,554件

Eメール ando.harumi@theia.ocn.ne.jp ホームページアドレス http://ando-harumi.com/